

# 健康通信

## 直腸がん手術の最前線

### ～ロボット支援下手術～



消化器外科 医長

## 筒山 将之

### 直腸がんとは

直腸がんは肛門に近い部位の大腸に発生するがんであり、無症状のまま健康診断で偶然発見されるものもあれば、腹痛や血便（便に血が混じる）・便が細いなどといったさまざまな症状が契機として発見されるものもあります。直腸がんは放置すると貧血や腸閉塞といった状態に陥るだけでなく、全身へ転移することによって生命に大きくかかわる重大ながんのひとつといわれています。

### 直腸がんに対する治療法

直腸がんに対する治療として、さま

ざまな治療法が開発されてきました

が、現状においても手術治療は最も重要な役割を担っています。しかし、直腸は骨盤内という狭い空間の中に存在するうえ、重要な臓器や血管、神経とも隣接していることから、隣接臓器への損傷や機能障害、大出血をきたしうる難易度の高い手術といわれています。

直腸がんの手術は、従来の大きくお腹を切開する開腹手術から、数か所の小さな創から手術を行う腹腔鏡手術がこの10年で急速に進み、患者さんの負担が少ない手術として現在では腹腔鏡手術が一般的な手術法となってきました。

しかし、「指先で扱うようなもう少し繊細な手術ができれば…」とか、「手術器具が思うように少しだけ曲がってくれば…」といった、「もう少し〇〇だったら…」という課題が残されていました。これらの課題を克服しうる手術支援器具としてロボットが開発されました。

### 当院でのロボット支援下手術

ロボット支援下手術は、私たち外科医がコンソール（手術操作盤）よりロボットを操作することで手術が行われます（図1）。腹腔鏡と同じような小さな創から、手ブレがなく自由度の高い関節機能のある手術器具が使用できることから、骨盤腔内という狭い空間でも質の



▲当院のコンソール（手術操作盤）（図1）

高い繊細な手術が可能となりました。本邦では、2018年4月よりロボット支援下直腸切除術が保険収載され、当科でもこれまでに50例以上の症例数を経験してきており、開腹手術や腹腔鏡手術と比較しても良好な成績を収めることができます。

### 直腸がんにお悩みの方へ

患者さんそれぞれに個性があるように、直腸がんそのものにも、それぞれの個性があります。これまでお話ししたロボット支援下手術がすべての患者さんにおいて最善な手術方法という訳ではなく、患者さんやがんの状態に応じて適切な治療方法を考えていく必要があります。また、新たな治療法の確立や手術合併症を低減させるため、さまざまな臨床研究にも取り組んでいます。

直腸がんでお悩みの方がいらっしゃるようでしたら、是非とも小牧市民病院にてご相談させていただき、一緒に今後の治療について考えていければと思います。